

仁榆会病院

受け入れ困難な泌尿器科の 長期療養リハビリを実施

手術がメインの急性期
病院では、入院期間が
制限され（3週間程度）、



▲丸晋太郎理事長

退院後の患者の受け入れ
先が問題になることが多
い。とりわけ進行した膀
胱がんや前立腺がんの患
者では、腎ろうや膀胱ろ
うなどの特殊なカテーテ
ルを装着しなければなら
ないケースもあり、管理
が難しい事情から受け入

れを断られるケースが多
い。

札幌市内にある医療法
人仁榆会・仁榆会病院（丸
晋太郎理事長）は、昨年
4月にリハビリテーショ
ンの提供を開始し、その
ような患者を積極的に受
け入れている。泌尿器科

単科の病院
でリハビリ
テーション
を実施する
のは道内初
の試み。
前述した
腎ろうや膀
胱ろうのカ
テーテルは、
消毒や固定
などの特殊
な管理が必

要で、カテーテル
が抜けてしまった
場合は看護師では
扱えず、泌尿器科
の専門医が挿入し
なければならぬ。
「管理が大変だと
いう理由で受け入
れを拒む施設が多
く、仮に受け入れ
可能でも空き待ち
の状態のため、そ
のような患者さん
は行き場がないの
が現状です」
と丸理事長。
仁榆会病院は、急性期
病棟に加えて、入院透析
や緩和ケアに対応する障
害者病棟を備えている。
現在、市立札幌病院や北
海道がんセンター、KK
R札幌医療センターなど
の紹介で5〜10人程の患
者を受け入れ、腎ろうや
膀胱ろうの管理のほか、
患者のADL（日常生活

動作）に合わせてベッド
サイドやデイルームなど
でのリハビリを実施。寝
たきりの患者の場合には、
週3回、筋肉の拘縮予防
や筋力維持のリハビリを
行っている。
同院は3年後に病院を
新築する計画で、「新病
院では、専用のリハビリ
施設を設け、リハビリス
タッフも充実させたい」
（丸理事長）



▲仁榆会病院